

科学技術研究調査に係る実地調査結果概要

総務省政策統括官室

	調査票記入担当者	調査票の記入に必要な期間	人事情報のデータ化の有無	研究者の専門別内訳の回答方法	情報科学と心理学の追加への支障等	性格別研究費(基礎研究・応用研究・開発研究)の回答方法	特定目的別研究費の回答方法	「震災からの復興、再生の実現」、「グリーンイノベーションの推進」及び「ライフイノベーションの推進」に関する研究費の回答可能性
A企業	人事担当者が記入(研究費部分については、会計担当へ作業を依頼)	1週間程度	○	業務内容を「種別」としてデータ化しているため、これを集計。	専門が情報科学に区分される研究者については、「数学・物理」に含めているが、新たに項目が追加されるのであれば、ほぼ全てを「情報科学」に含めることとなる。	目的を持って研究を実施しているため、基礎研究に含める費用は定義に照らし個別に判断。	約400本の研究を実施しているが、これを大きく10種類のテーマで区分しているため、このテーマごとに調査の定義に合わせて回答。	「ライフイノベーションの推進」に係る研究はほぼない。「震災からの復興、再生の実現」及び「グリーンイノベーションの推進」については、例示される研究内容から個別に判断。
B法人	総務担当が記入(研究費については、会計担当、研究者については、人事担当へ作業を依頼)	1月程度	○	回答の対象となる全データを出し、エクセルで集計。研究者の専門分野はデータ化されていないため、研究内容、学位等により個別判断。判断が困難な場合は、本人へ確認。	特になし。	幅広く研究を行っているため、基礎研究、応用研究、開発研究の区分で管理していない。新領域を作る研究が基礎研究として整理し、応用研究及び開発研究については、大きな括りで判断し回答。	予算の勘定科目から判断し、別途算出。	予算要求上の科目として設定されれば回答は容易。
C大学研究所	人事担当者が記入(研究費については、会計担当へ作業を依頼)	1週間程度	○	回答の対象となる全データを出し、エクセルで集計。	専門が情報科学と心理学の研究者については、回答の際に悩んでいた分野であるため、回答欄が設けられるのであれば、記入が容易になる。	内部で同様の区分を行っているため回答は容易。	部門別の資金出資一覧から該当する金額を転記。必要に応じて切り分け。	広く捉えるのか、特定の研究に特化するのかについて明確になっていれば、定義に合わせた回答は可能。

※ 平成23年11月28日～12月12日に実施した実地調査の結果概要である。